

学年	高2	教科	国語	科目	古典探究	単位数	3
教科書名	高等学校 古典探究 (数研出版)			副教材名	読んで見て覚える 重要古語単語 315 三訂版 (桐原書店) 新精選 古典文法(東京書籍) 基本セミナー 漢文入門(浜島書店) 漢文名分文選故事成語編 (筑摩書房) 古典文法習得のためのマスターノート (数研出版) 【選抜】 大学入学共通テスト演習 (いしづな書店)		
コース・クラス	N進理系						

I. 目標

- 1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を養成し、伝え合う力を高める。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
- 3 書かれたものに触れることで、思想や人間のありようを知る。

II. 授業のねらい

- 1 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深める。
- 2 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めること。
- 3 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めること。
- 4 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させること。
- 5 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けること。

III. 授業の進め方

- 1 文章内容の理解を主とし、発問形式による教授方法やグループ学習によって学習を進める。
- 2 図説等の副教材を適宜活用し、確認テストを実施する。
- 3 古文では、『新精選 古典文法』を活用して文法事項を学習し、漢文では、『漢文名分文選故事成語編』等を使用する。

IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として意味調べや漢字の書き取り、作品の通読を行うこと。
- 2 授業中には、板書や必要な情報をノートに書くこと。
- 3 配られた資料は、ノートに貼るかファイリングをし、必ず保存管理すること。
- 4 毎時教科書、ノート、副教材を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。

V. 定期試験

- 1 学期 中間試験 : 敬語、使役形、初見問題
- 1 学期 期末試験 : 敬語、受身形、初見問題
- 2 学期 中間試験 : 陳述の副詞、比較形、最上級、初見問題
- 2 学期 期末試験 : 助詞、抑揚形、仮定形、初見問題
- 3 学期 学年末 : 総復習、初見問題

VI. 評価の方法

- 1 定期試験・進研模試…授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト…計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 3 提出物…積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	・敬語 (種類・現代語訳)	・小テスト ・提出物 ・定期試験 ・進研模試	・敬語の種類を理解する。
	5	・使役形		・文章を用い、敬語を認識し、現代語訳できる
	6	・敬語 (敬意の方向)		・文章を用い、使役形を認識し、現代語訳できる。
	7	・受身形		・敬語の敬意の方向を理解する。 ・文章を用い、敬語を認識し、現代語訳できる
		※ 適宜、助動詞の復習をする。		・文章を用い、受身形を認識し、現代語訳できる。
二学期	9	・陳述の副詞	・小テスト ・提出物 ・定期試験 ・進研模試	・陳述の副詞を理解する。
	10	・比較形・最上級		・文章を用い、陳述の副詞を認識し、現代語訳できる
	11	・助詞		・文章を用い、比較・最上級を認識し、現代語訳できる。
	12	・抑揚形・仮定形		・助詞を理解する。 ・文章を用い、助詞を認識し、現代語訳できる
三学期	1	基礎学に向けた問題演習	・小テスト ・提出物 ・定期試験 ・進研模試	総復習を兼ねた、基礎学力到達度テストに向けた問題演習に取り組む。
	2			
	3			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。